

5社のファイナリストから、CI inc. がグランプリを受賞。

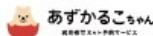
ファイナリスト概要 (ビジネスコンテスト部門)

<p>グランプリ</p>	<p>病児保育室と家族をつなぐ「あずかるこちゃん」/ CI Inc.</p>	<p>いつでも近所の空いている病児保育室をLINEアプリで簡単に予約できる病児保育ネット予約サービスで、ホームページ上で近所の病児保育施設を検索し、LINEで予約することが可能。「安心して子供を産み育てられる社会をつくる」世の中の実現を目指す。</p>
<p>優秀賞</p>	<p>日本初の“アトピー見える化アプリ”アトピヨ ~アトピーはみんなで治す時代へ~/ アトピヨ</p>	<p>アトピー専用の画像SNS「アトピヨ」により、ユーザー間のコミュニケーションやサポート、画像による症状記録支援、利用者が登録するアトピー歴などのデータベースを提供する。</p>
<p>ピアサポート型習慣化アプリ「みんチャレ」を活用した2型糖尿病の重症化予防/ エーテンラボ株式会社</p>	<p>5人1組のコミュニティの中でお互いが励まし合いながら行動変容のモチベーションを高めていく「みんチャレ」を開発・提供する。医師に歓迎され推奨されており、利用者の生活習慣改善に貢献する。</p>	
<p>発達障害支援機関向けソーシャルスキルトレーニングVR「emou (エモウ)」/ 株式会社ジョリーグッド</p>	<p>VR技術を用いた発達障害者向けのソーシャルスキルトレーニングプログラム。仮想的に再現された教室や友だちとの会話、突発的な不測事態などを本人目線で体験することで、対人コミュニケーションなどのソーシャルスキルの獲得を目指す。</p>	
<p>和歌山発、誤嚥の予防のために開発した器具「タン練くん」の製造販売。全国のお年寄りを助けたい。/ 株式会社リハートテック</p>	<p>「タン練くん」は、高齢療養者の誤嚥を予防する器具であり、把手付きのボトルに哺乳瓶の乳首部分と同様のものを付け、舌から続く嚥下の筋肉を鍛えることができる。嚥下に関係する筋肉強化による、高齢者の誤嚥性肺炎防止に繋げる。</p>	

1. JHeC2020グランプリ受賞者の概要 (ビジネスコンテスト部門)

CI Inc.

BUSINESS 病児保育室と家族をつなぐ「あずかるこちゃん」



登壇者プロフィール

氏名：園田 正樹

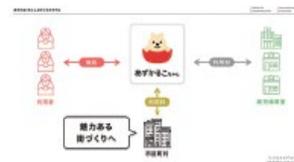
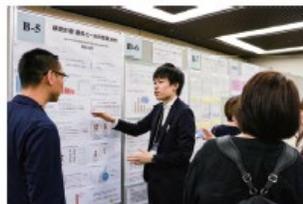
所属：CI Inc. (シーアイ・インク)

役職：代表取締役社長

新潟県糸魚川市出身。佐賀大学医学部卒。
産婦人科医として、産後うつや虐待に関わる。東京大学大学院で公衆衛生を学び、生活をいかに変えるかに関心を持つ。実践により社会をよくなりたいと考え、大学院を休学。プロフェッショナルが有機的に繋がることで世界を変えるという思いから、2017年Connected Industries Inc.を設立。自身も実装者の一人となるべく、デジタルハリウッド大学大学院に進学。

産婦人科医として女性に関わる中で「風邪のような軽症の病気でも保育園に子どもを預けられず、仕事を休み、退職することになった」という女性に出会う。『病児』ではなく『生活』を変えていくことで、医師として解決が難しかった課題を予防・解決することが可能なのではないかと考えた。感染症などにより保育園で預かることができるできない子どもを『病児』といい、病児に対して一時的にケアと保育を行ってくれるのが『病児保育室』である。病児保育室は、

社会インフラとして重要な役割を担っているが、認知度の低さや、利用方法が煩雑であるなどの課題も多い。また、これらの課題により、利用率が低いという現状がある。私たちはこの課題を解決するために病児保育室と家族をつなぐ『あずかるこちゃん』を開発し、安心して子育てができる社会を目指している。



【当日のプレゼンの様子】



団体概要

2017年7月7日に創業。産婦人科医である代表を中心に、医療者、デザイナー、エンジニアでチームを作り、「子どもと子育てに関わるすべての人の笑顔をつくる」をミッションに掲げ活動。
2018年に第12回 キッズデザイン賞「キッズデザイン協議会 会長賞」受賞、第7回健康寿命をのばそう！アワード「厚生労働省子ども家庭局長賞 企業部門 優良賞」受賞、2019年に起業家万博 5つの賞を受賞、CEATEC AWARD 2019「Co-Creation PARK賞」受賞。現在、全国5施設にて実証実験を実施中。

エーテンラボ株式会社

BUSINESS ピアサポート型習慣化アプリ「みんなチャレ」を活用した2型糖尿病の重症化予防



氏名：長坂 剛
所属：エーテンラボ株式会社
役職：代表取締役 CEO

1982年静岡県生まれ。2006年東京工科大学メディア学部卒業後、ソニー(株)に入社。B2Bの営業やブレイクセッションネットワークのサービスタチに従事。ソニーの新規事業創出プログラム「Seed Acceleration Program」から独立しA10 Lab Inc.を創業。

私たちが解決を目指す社会課題は「生活習慣病の治療が継続しない」ことです。例えば、糖尿病有病者の44%が治療を途中で中断してしまっていて、放置すると合併症・重症化を引き起こし、患者のQOLが著しく損なわれ、医療経済的にも大きな負担となります。そこで、2型糖尿病予備群・患者にピアサポート型習慣化アプリ「みんなチャレ」を提供することで治療効果を向上し、ひいては医療費適正化に寄与することを目指します。

「みんなチャレ」は、糖尿病や高血圧の方が匿名の5人1組のチームを組み、チャットで励まし合いながら生活習慣の改善を行うことができるピアサポート型の習慣化アプリです。



団体概要

エーテンラボ株式会社(A10 Lab Inc.)は行動変容と習慣化の「テクノロジーでみんなを幸せする」をミッションとして、ピアサポート型習慣化アプリ『みんなチャレ』の開発運営を行なっています。2019年度は経済産業省の「健康寿命延伸産業創出推進事業」に採択され、神奈川県庁と東海大学医学部と共に「みんなチャレ」を活用した2型糖尿病の方の生活習慣改善効果を検証する臨床試験を行なっており、神奈川県内の自治体や病院、健診センターでの『みんなチャレ』のご案内を進めています。

アトピヨ

BUSINESS 日本初の「アトピー見える化アプリ」アトピヨ～アトピーはみんなて治す時代へ～



氏名：Ako Ryotaro
所属：アトピヨ
役職：代表

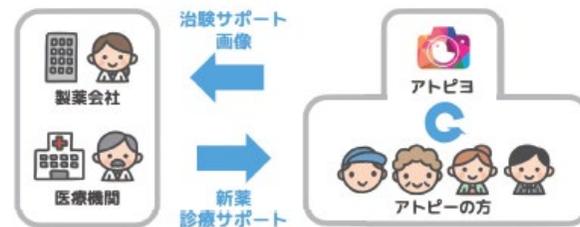
元アトピー。3児のパパ、プログラマー。工学修士。公認会計士。慶應義塾大学院理工学研究科修士課程修了後、公認会計士試験に合格。公認会計士として勤務する一方、アトピー、喘息、鼻炎という3つのアレルギー疾患の経験から、2年半に亘り、患者会でボランティア活動に従事。100人以上のアトピー患者へのヒアリング、薬剤師の妻の見解、プログラマーの指導・監修を経て、自ら本アプリを開発・リリース。

日本に600万人いると言われ、世界的にも患者が多い病気の一つであるアトピーは、患者の13%が「死にたいと思ったことがある」と答えるほど精神負担が重い病気です。また、アトピーの社会的損失は日本だけで746億円と推計されています。アトピヨは、アトピーを発症し悩んでいる方々の早期回復のサポートになることを目指し、文字だけでなく「画像」を投稿することで、アトピー特有の皮膚症状(状態)を匿名で記録・共有できる日本初のアプリです。(App Store・Google Playを調査。2018年7月アトピヨ調べ。)

App Storeリリースから1年半で、1万ダウンロードを突破し、1万1千枚のアトピーの画像が投稿されています。また、アプリの平均評価は4.6(5段階評価)とユーザーからも高い支持を得ています。



～アトピーはみんなて治す時代へ～



2018年7月リリース済み

団体概要

【アトピヨ】
元アトピーのRyotaro Akoが、元アトピーで薬剤師である妻のAkiko Akoと企画・開発し、2018年7月にApp StoreからリリースしたiPhoneアプリ。
慶應義塾大学医学部主催 第3回健康医療ベンチャー大賞 3位入賞、Healthcare Venture Knot 2019 優秀賞、TechAcademy Contest 2018 Summer 最優秀賞、第13回キッズデザイン賞受賞。【Akiko Ako】
元アトピー。3児のママ。薬剤師。ママ・女性の目線からのアドバイザー。

株式会社ジョリーグッド

BUSINESS 発達障害支援機関向けソーシャルスキルトレーニング VR 「emou (エモウ)」



経営者プロフィール

氏名：青木 雄志

所属：株式会社ジョリーグッド
事業開発部

役職：シニアプロデューサー

1986年東京都生まれ、テレビ番組制作会社にて在京キー局の番組ディレクターからキャリアをスタート。その後、起業経験を経て、2014年にデジタル系制作会社に参加、クリエイティブディレクターとして、国内大手クライアントのキャンペーン・事業開発業務に従事。2018年4月より株式会社ジョリーグッドに参加、事業開発部シニアプロデューサーに就任。発達障害支援機関向けのサービス、ソーシャルスキルトレーニングVR「emou」の事業開発責任者として教材開発、営業戦略まで幅広く手がける。

発達障害のある方が社会スキル獲得のために行うソーシャルスキルトレーニング(SST)は、これまで支援者の腕でクオリティが大きく左右されていました。そこで株式会社ジョリーグッドは、専門医監修のもと、VR技術によって360度実写の現実空間を教材にSSTが実施できるソーシャルスキルトレーニングVR「emou」を、発達障害支援機関に向けて2019年3月より提供開始しました。ヘッドセットを装着

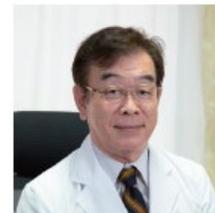


団体概要

株式会社ジョリーグッドは2019年「日本e-Learning大賞」を受賞した介護士教育VRの開発をはじめ医療・福祉分野などでVRを活用した様々なサービスを開発するテクノロジーカンパニーです。高精度な「プロフェッショナルVRソリューション」と、VR空間のユーザー行動を解析するAIエンジンなどのテクノロジーを、「地域の生活者や企業が活用できるテクノロジープラットフォーム」にデザインして、数多くの企業や自治体に提供しています。

株式会社リハートテック

BUSINESS 和歌山発、誤嚥の予防のために開発した器具「タン練くん」の製造販売。全国のお年寄りを助けたい。



発業者プロフィール

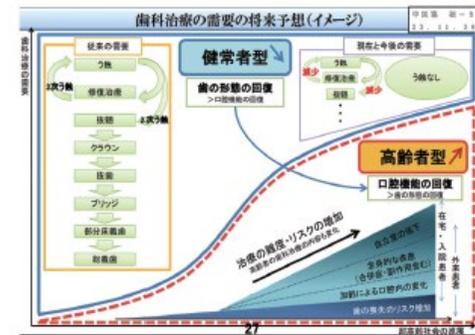
氏名：笠原 直樹

所属：株式会社リハートテック
経理・営業代表

役職：取締役

岐阜歯科大学を卒業後、28歳で歯科医院を開業し、60歳で息子に歯科医院を譲るまで山間部の老人ホームに口腔ケアを週に1回、10年間行っていた。誤嚥性肺炎による死亡者が減らず、60歳の時に特別養護老人ホーム「若出憩い園」を開設。毎日、歯科衛生士とともに口腔ケアを行ったが、完全には誤嚥性肺炎はなくなり、視点を嚥下の筋力トレーニングと変え、口腔嚥下機能訓練具、嚥下リハビリボトル「タン練くん」を開発。特許を取得した。実際、販売を開始したのは平成30年9月17日からである。

近年、高齢化が進み、誤嚥性肺炎による死亡者が毎年一万人単位で増えている。それに伴い、医療費の増加も4,300億円から増え続けている。今までの対応では増加は止まらないと思われる。誤嚥しだす対策として柔らかいもの、トロミをつけたものを摂取し、嚥下体操などを行うも誤嚥患者数は増え続けている。赤ちゃんの哺乳瓶の吸い口を大人用にしてその弾力性を訓練用のものとし、特許を取得し、一般医療機器として認可された。積極的に舌に負荷をかけてそれに続く嚥下筋力を鍛えるというものである。赤ん坊の生存本能（原始反射）舌と顎、嚥下関連筋を動かして乳を飲む本能。または物を飲み込む動作は必ず舌は上あごにつき、喉頭へ送られる。その際、舌、舌骨、喉頭蓋と連動する。この二つの人間が持つ本能、反射を利用して飲み込む筋肉の弱った高齢者や障がい者等に飲み込むだけで鍛えられる。口腔嚥下機能訓練具を世に出し、苦しんでいる人を救い、医療費を抑制したい。またいずれ介護保険認定商品となることを目標としている。



団体概要

和歌山にて歯科医院を30年経営したのち、2012年に社会福祉法人「紀の国福樹会・若出憩い園」を設立。理事長として運営に携わる。歯科医時代から誤嚥で苦しむ高齢者を目の当たりにし、嚥下力強化器具「タン練くん」を開発、特許取得。2018年11月より株式会社リハートテックを設立し、取締役として販売を手掛ける。2019年11月には機能訓練・嚥下機能リハビリ器具として一般医療機器に認定される。株式会社リハートテックも一般医療機器製造販売業として改め、改良を加え、販売する。

4名のファイナリストが登壇し、武藤高史氏（カイトク株式会社）がグランプリを受賞。

ファイナリスト概要（アイデアコンテスト部門）

グランプリ	介護ワークシェアリングサービス「カイスケ」/ 武藤 高史氏（カイトク株式会社）	有資格者の介護ワーカー限定で登録でき、Web上で介護の仕事を探し、1日あるいは数時間単位といった単発的な就業を可能にするサービス。介護業界の人材不足の解決を目指す。
優秀賞	10分1000円から利用できる、治療をしない予防歯科Hakara/ 清水 章矢氏（Hakara）	歯科健診、口腔内の汚れや歯石の除去など、予防歯科に特化した口腔ケアの実施、オーラルケア指導および関連の物販販売をサービス内容とする予防歯科クリニック。
	身体にやさしい心臓病治療を可能にする新規カテーテルデバイス「MAV」/ 三隅 祐輔氏（大阪大学大学院医学系研究科）	大動脈弁狭窄症の患者に対する低侵襲のカテーテル治療が可能な新規デバイス。既存の治療ができなかった患者に対して治療機会を提供可能にすることを目指す。
	塩分管理をラクにする食品検索・食事管理アプリケーション「さがそると」/ 湯野川 恵氏	スマートフォンアプリを用いて、減塩に寄与する食品の検索や食事記録、情報の閲覧・一覧化などの機能を実装する食品検索・食事管理サービス。簡便だけでなく、“楽しい塩分管理”の実現を目指す。

4. JHeC2020グランプリ受賞者の概要 (アイデアコンテスト部門)

IDEA 介護ワークシェアリングサービス「カイスケ」



登壇者プロフィール

氏名：武藤 高史
所属：カイトク株式会社
役職：代表取締役

立命館大学・同大学院の情報工学の博士課程前期修了。在学時は、情報工学や遠隔操作ロボットの研究開発に没頭する。世界最大級の医師プラットフォームを提供しているエムスリー株式会社にて、主力サービスの責任者を歴任し、利益120%向上の実績を残す。さらに、自身も介護職として介護現場の仕事を経験し、「現場感」と「ITビジネス」の2つのスキルを活用して、介護業界の革新に命をかけるため「カイトク株式会社」を設立。

日本は人類が未だ経験したことがない「超高齢社会」に直面しており、2025年には国民の3人に1人が65歳以上という状況を迎えます。日本の介護需要が高まる中、介護業界を担う介護職の「人材不足問題」が業界の最重要課題となっています。しかし、国を含めて誰も明確な打開策の糸口が掴めていないのが現状です。そこで、私たちは本気でこの問題を解決するために開発したのが、業界初の介護ワークシェアリングサービス「カイスケ」です。「カイスケ」は

Web上で「介護資格証の認証⇒仕事探し⇒仕事確定⇒勤務⇒評価⇒給与受取」までを、簡単な操作で完結できます。「カイスケ」によってこれまで介護業界では成し遂げられなかった短時間での勤務を実現させ、時間や生活の制限から定時勤務や正社員として働くことのできなかった「潜在介護士」を掘り起こし、介護労働力を増加します。さらに、介護職と介護事業所のミスマッチを減らし、離職防止にも寄与していきます。



団体概要

2018年にカイトク株式会社設立。代表武藤が自身祖父母の介護施設に入所した経験から、日本で深刻かつ重要課題だと感じた「介護人材不足問題」を解決するべく設立した。これまでに、介護業界向けの「採用コンサル」「求人Web媒体開発・運営」「バーチャル施設見学」などのサービスを提供することで、介護業界の採用の進化に貢献してきた。2019年12月にカイスケのα版をリリースし、2020年に多くの介護職/事業所に広めるために、2020年3月までに資金調達予定(出資者募集中)。

【当日のプレゼンの様子】



IDEA 10分1000円から利用できる、治療をしない予防歯科 Hakara



氏名：清水 章夫
所属：Hakara
役職：歯科医師

日本歯科大学歯学部卒、日本歯科保存学会認定医、日本歯科大学附属病院歯内療法チームに在籍中に感じた歯科治療のジレンマと、スウェーデンなどオーラルケア先進国と比較にならない歯科健診受診率の低さを知ったことがきっかけとなり、「どうしたら予防歯科が一般的になるか」「国民のQOLの向上と国の医療費の削減にどう貢献できるか」を考え、10分1000円から利用できる予約も保険証も不要の予防歯科「Hakara」を考案。

- 「エキナカや商業施設内に、予約も保険証も不要で10分1,000円から利用できる、予防だけの歯科クリニック」
- 削る埋める抜くといった治療はしない、国家資格所有者である歯科衛生士を中心とした予防医療専門のクイックデンタルサービスです。
- ※ホワイトニングサロンではなく歯科医院です
- ・歯科健診(虫歯、歯肉、粘膜等のチェック)
- ・スケーリング PMTC(汚れ、着色除去)
- ・オーラルケアグッズの指導及び販売
- ・他院紹介(要治療の場合)
- ・企業向け歯科健診
- 5年で10店舗、規制緩和(歯科衛生士がクリニック開業可能に)を達成し、全国展開100店舗以上を目標とします。
- 散髪に行く気軽さで受診し、それが当然となることで「治療のない世界」を実現させます。



団体概要
歯科健診受診率を向上させ、QOLの向上と医療費の削減に貢献し「治療のない世界」を目指す、日本初のクイックデンタルサービス。2020年5月、日比谷線神谷町駅3番出口直結の、虎ノ門40MTビルにHakaraデンタルクリニックを開業予定。
「三菱地所主催コーポレートアクセラレーター2017」優秀賞
「Tokyo Startup Gateway2018」優秀賞、オーディエンス賞
「未来2019」メディカル・ヘルスケア部門最優秀賞、Beyond Next Ventures 株式会社BRAVE賞

IDEA 身体にやさしい心臓病治療を可能にする新規カテーテルデバイス



氏名：三隅 祐輔
所属：大阪大学 心臓血管外科
役職：医師

心臓血管外科医師・ジャパンバイオデザイン第3期フェロー、2009年、大阪大学医学部卒業後、約10年に渡り一般外科及び心臓血管外科の臨床業務に従事(虎の門病院、国立循環器病研究センター、桜橋渡辺病院、大阪大学医学部附属病院等)、大阪大学大学院博士課程在籍中にジャパンバイオデザイン・フェローシップを修了。現在、同フェローシップで立案した本プロジェクトの事業化に向けて活動中。

心疾患の一種「大動脈弁狭窄症」は、加齢に伴う動脈硬化で心臓の弁が開きにくくなることで失神・息切れ・突然死を来し、未治療での5年生存率は50%と極めて不良です(75歳以上の有病率12.4%)。根治治療は病的弁を人工弁に取り換える「弁置換術」ですが、手術に伴う身体的・金銭的負担等の障壁があり、治療対象患者の約20%が適切な治療を受けられていない現状課題があります。

我々は新規カテーテルデバイスを用いた治療法を確立し、当該課題を解決します。本法は、既存治療よりも①身体的負担が少なく(入院期間が半分以下)、②低コストで(弁置換デバイスの1/10)、③疾患弁の機能を十分に回復させることで、現在適切な治療を受けられていない患者ひいては該当疾患を有する患者に広く治療機会を提供します。

治療概要

低侵襲カテーテルを用いた、新しい弁形成術

- ✓ 低侵襲
- ✓ 手の血管から(本法)
- ✓ 胸膈 or 足の血管から(従来)
- ✓ 弁にフィットするデバイス形状
- ✓ 高い治療効果
- ✓ 複数の小口径バルーン型カテーテル
- ✓ 低コスト

既存治療との比較

治療	MAV(新しい弁形成)	弁形成(既存)	外科手術	弁置換カテーテル
治療効果	・2日入院 ・40万円 ・効果3年	・1週間入院 ・40万円 ・効果半年	・1か月入院 ・150万円 ・効果10年	・2週間入院 ・100万円 ・効果7年
治療費	40万円	40万円	150万円	100万円

団体概要
本プロジェクトは、ジャパンバイオデザイン・フェローシップにて同定された潜在的医療ニーズに基づいて立案されました。臨床医とカテーテル開発エンジニア、医療機器開発専門家が協業してプロトタイプングを行っており、薬事・保険償還を見据えたコンサルを受けております。2019年にはNEDO-TCF審査員特別賞受賞、未来2019ファイナリスト選出を頂き、AMED橋渡し研究シーズA獲得、基本特許出願を経て、現在は非臨床POC獲得に向けたベンチ及び動物実験環境を構築中です。

IDEA 塩分管理をラクにする食品検索・食事管理アプリケーション「さがそると」



登壇者プロフィール

氏名：湯野川 恵

2018年神戸大学法学部法律学科卒業後、外資系コンサルティング企業に入社。同年に特発性拡張型心筋症と診断され、病状を考慮し退社。現在は、患者として通院しているゆみのハートクリニック(東京都豊島区)にスタッフとして入職し、医療機関と患者目線の両面を取り入れた塩分管理サービス『さがそると』の立ち上げに尽力している。

2030年には150万人を超えると推定されている心不全患者。心不全の治療に際して基礎の基礎となるのが塩分管理です。しかし、健康な人も含めて日本人は塩分を摂りすぎています。塩分の取りすぎには健康な人にとっても、心不全患者にとっても様々なリスクがあり、塩分管理は社会全体の課題と言えます。これほど大切なことにもかかわらず、『味が薄い』『美味しくない』といったネガティブイメージも強く、実際にやってみると塩分管理のハードルは想像以上に高いものです。さがそるとは、指定難病とされている拡張型心筋症と診断され、実際に塩分制限が必要な患者の目線で立ち上げたサービスです。スマートフォンアプリを軸に『画像認識による記録』と『食事内容の提案』のサイクルで『食べられる減塩生活』を叶えます。

